



普及センターだより

府内初

第三者農業経営継承が始まる

農地や農業機械等の有形資産だけでなく、栽培技術や経営管理のノウハウなどの無形資産を含めた農業経営を家族以外の第三者に受け継いでもらう「第三者農業経営継承」が福知山市で始まりました。

これまで農家らが大切に守ってこられた農地を荒廃させず、若くてやる気のある就農希望者へバトンタッチする新しい手法として注目を集めています。

今回、経営移譲をする大西敏郎さんは、家族に継承する者がなく、自分が引退した後、地域の農地をどう守るべきか悩んでおられました。一方、新規就農者の岡本晴樹さんは園芸関係の会社に勤めておられましたが、農業への思いが強く、「ジヨブカフェ京都」への就農相談をきっかけに、大西さんの存在を知り、就農を決心されました。

「担い手養成実践農場」の研修期間中は大西さんをはじめ、3名の技術指導者から水稲、キュウリ、軟弱野菜の栽培技術を学んでこられました。

3月24日に大西さんと岡本さんとの間で経営継承の時期や方法について取り決



福知山市 岡本さん(左)と大西さん

めをした合意書が取り交わされ、今後は5年程度をかけて大西さんが管理されている経営を徐々に岡本さんが受け継ぐ予定となっています。

経営開始した現在、岡本さんは「まだ一人では水稲栽培の全行程をできないので、大西さんから学ばなければならぬことがたくさんあります」とおっしゃっています。

京都府中丹広域振興局農林商工部

◆発行◆
2010年(平成22年)6月にし
中丹西農業改良普及センター〒620-0055 福知山市篠尾新町1-91
TEL 0773-22-4901

e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

ひがし
中丹東農業改良普及センター〒623-0012 綾部市川糸町丁畠10-2
TEL 0773-42-2255

e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

5つの重点課題を設けて活動します！

農村集落の再生

整備された山ブキ園



『命の里』のいきがい

京都府では、「命の里」である農山村地域の再生に取り組み地域を集中的に支援し、「地域の維持が可能な人口の確保」「地域で生活が可能な所得の確保」「地域で定住可能な生活環境の実現」を図ることで命の里の再生を目指します。

普及センターは、住民の地域内での収入ややりの源として、特産物の育成を支援し、水源の里の柘餅のような農産加工品づくりや荒廃農地・不耕作地での山ブキ等栽培の拡大を図っていきます。

また、山間地域は、営農基盤が少ないため、農産物の販売だけでなく、農家体験受け入れや直売所に期待されており、集落での取り組みを支援します。

各地域とも獣害が多く、色々な取り組みを実施する上での大きな障害となっており、獣害対策のための集落環境点検等を実施していきます。

安心・安全で魅力ある直売所づくり

食の安心・安全



活気ある直売所

中丹地域の農産物直売所はここ2年で売上が1.4倍に増え、4億円に迫っています。新鮮で値ごろ感があり、農家の顔が見える流通として注目されていますが、それだけに農家側も安心・安全には念を入れて取り組まなければなりません。

そこで、JA流通で取り組まれている栽培履歴の記帳を直売組織でも進めることにしています。安心は心の持ち方、これを担保する安全は農薬の種類や量が間違いなく使用されていることを証明できる具体的なものでなければなりません。

また、農産物だけでなく加工食品の安全にも取り組むことにしています。たとえば、要冷蔵品が常温で販売されていないかなど取り扱い方法などの再点検を支援していきます。

そして、地域農業や農村の魅力を伝えられる人づくりも目指した講習会や巡回指導を実施し、魅力ある直売所づくりを支援していきます。

京野菜及び良食味米の生産振興と環境に優しい良食味米生産の取り組み

生産振興と環境にやさしい農業



『万願寺とうがらし』と『紫ずきん』の安定栽培及び生産拡大に向けた技術支援、中丹地域の環境に優しい『特別栽培米』のブランド確立に取り組みます。

【万願寺とうがらし】

辛味果とアントシアノ果が出にくい新品種『京都万願寺2号』の現地実証に取り組みます。また、青枯病や疫病に強い『台パフィー』台木の活用と耕種的防除の組み合わせで、安定栽培の技術支援をします。

【紫ずきん】

機械を活用した大規模経営体の支援と収量の少ない地域の出荷量向上に向けて技術支援をします。

【特別栽培米】

土壌分析や生育診断に基づく施肥改善で食味を向上させ、食味ランキングの向上を通じて中丹米のブランド確立に取り組みます。

担い手の確保・育成

新規就農者の定着促進

中丹地域は、府内でも過疎高齢化が最も進んだ地域です。農業の担い手は、水稲、畜産、茶3部門で9割を占めています。これらの部門に就農する場合は、多額の開業費用がかかることから、この営農基盤を活かしながらいかに繋ぐかが、個人や地域営農の大きな課題となっています。

普及センターでは、新たに農業を始めた方に向けて、生産活動周辺の営農知識を学ぶ講座を開設するとともに農業法人を始めとする営農組織の継続に向けて支援していきます。

また、中丹地域の特産である茶について、貸借可能な茶園のマップを作成して、次世代に向けた基盤整備を行い、新規就農者への経営移譲を促進させます。

***タスクチームとは** 研究機関等と普及センターが協力・連携して現場課題の解決を図るためのチームです。
 主な活動計画：「丹波黒大豆系極早生エダメ新品種の出荷体系の構築」「被覆茶の品質改善」「獣害対策」「京都万願寺2号の普及」「飼料米生産導入による農地管理」

*普及センターではこの他に、関係機関と協力・連携したタスクチーム、地域個々の課題や調査研究課題にも取り組み、中丹地域の活性化を図るため、技術指導など普及活動を進めていきます。

地域の新たな担い手

京野菜セミナーを受講して、その後

舞鶴市泉源寺の椋本和明さんは自衛隊勤務の傍ら水稲中心の農業をされてきました。年に半分は海外勤務という生活や自衛隊での夢を叶えられた事をきっかけに、3年前に専業農家を目指すことを決意されました。地元でがんばりたいという意気込みで、今年の7月から専業で農業に取り組まれます。

これまで栽培の基礎と専業時の生活設計について勉強をしてこられました。昨年、普及センターの「京野菜新規栽培セミナー」で野菜の基礎技術を学ばれ、紫ずきん、万願寺とうがらしの栽培を始められます。

椋本さんは、地域の水田が荒れていくのを目にしてこられたことから、水稲の受託をされています。また、家族の協力と援助もあり、えびいもも栽培される予定です。



舞鶴市 椋本和明さん

綾部市の担い手養成実践農場

綾部市和木町の橋本登美雄さんを紹介いたします。

橋本さんは、昨年11月から綾部市の担い手養成実践農場で指導者の荒木さんから小豆や水稲の栽培、農業経営全般、中田さんには製茶や茶業経営などの研修を受けておられます。橋本さんは就農先を探しに綾部市を訪れ、和木町の人柄や地域に惚れ込み、転入され、実践農場が始まりました。5月には田植えも終わり、位田町の茶園や茶工場に通い研修の毎日です。「和菓子職人の経験を生かし、大粒で煮えやすい小豆など、綾部の特産品を生産し、将来は産地を牽引できる存在になりたい」と言われています。



綾部市 橋本登美雄さん

山ブキ・シンポジウムのご案内

山ブキのことをもっと知り、身近に感じていただくためにシンポジウムを開催します。個人、集落ぐるみ、農業法人等多くの方々のご参加をお待ちしています。

- と き** 平成22年7月14日(水)
- と ころ** 北陵総合センター(福知山市下野条)
- 内 容** ①昼食を兼ねたフキ料理試食
②技術研修(ほ場見学、除草省力技術等)
③事例報告
- 参加費** 500円(昼食代)
- 申込み期限** 平成22年7月7日(水)

参加希望は最寄りの普及センターまで

7月末までに小豆の播種を終えよう!!

梅雨明けが遅く、播種作業が大幅に遅れた昨年の轍を踏まないよう、播種前でできない対策をしっかり行いましょう。

何はともあれ、排水対策!!

トレンチャで額縁明渠を施し、耕うん後は排水溝をつくりましょう。

大規模な営農組織は、耕うんから播種後の除草剤散布まで綿密に計画を立て、天気予報を取り入れ作業しましょう。

平畦で播種する場合は、ロータリ爪を内向きにかえて、湿害を受けない工夫をしましょう。